

CCクラブ一期生の人達が大学を修了以降、
10年以上の間ずっと続けている同期の集い

OKAMOTO サロン



岡本先生とCCクラブ
一期生の皆さん

今は一緒にいる仲間

・ある人は「コミュニティカフェ」をやり、
ある人は「サイエンスカフェ」をやり、そ
ういった「場」にみんなで参加して行こう。
こんな活動形態に我々はしたかった。



笑顔が集うOKAMOTOサロン

(後記) 取材当日は、教科書を買求める新入生達でパレットゾーン2階は賑わっていました。その片隅で、13年前のCC大学新入生は楽しげに談笑していました。取材では皆さんが次々に話をして頂きましたが、紙面の都合でとても書き切れません。結局、取材メンバーが一番得をしたのかもしれませんが。

始まりは先生と生徒

・CC大学を修了する直前、皆、何かやろうという機運を強く持っていた。そこで場所を決めて、難しい話ではなく、何でもトーク形式にしようということで集まったのがスタート。毎月一回、集まる曜日を決め、ここに来れば誰かがいる。たとえ2人でもいいじゃないか。それを続けようということで今に続いている。

・OKAMOTOサロンの始まりは、1期第2グループの先生と生徒の集まり。その後、3つのグループが自然な形で一つになり、一期生合同の集いへと変化した。



ルールは何でもトーク

・一期生は、修了後に港区のボランティア活動のリーダーにならなければいけないという意識が強く、箱根の合宿では随分悩んだ。

・一人一人違う文化の中で育っており、価値観の違う人の集まりからスタートし、それが少しずつ馴染んで行くのには凄く時間が掛かった。



・「CCクラブメンバーに入ったおかげで挨拶する人が多くなった。」「お友達が増えて楽しくなった。」という話を聞いた。それだけでも良かったのではないかと思います。意図的に友達になりましょうと言っても、中々出来るものではない。



明治学院大学
岡本多喜子教授

